

横浜市営交通局の地下鉄の基本情報

中等A.K

横浜市交通局は神奈川県横浜市に地下鉄路線を2路線、バスを同市全体に走らせている公営企業だ。今回はその中の横浜市営地下鉄に絞って解説をしていこうと思う。

横浜市営地下鉄には「ブルーライン」と「グリーンライン」の2路線ある。まずはブルーラインから解説していこう。

1. ブルーライン

ブルーライン(正式名称:横浜市高速鉄道 1号線・3号線)は神奈川県藤沢市にある湘南台駅から同県横浜市青葉区にあるあざみ野駅までを結ぶ全長 40.4km の路線である。

この路線では全国的にも珍しい地下鉄での定期列車での快速運転を行っている。停車駅は湘南台～戸塚、上永谷、上大岡、関内、桜木町、横浜、新横浜、新羽～あざみ野だ。また、この路線には多くの駅で他路線の接続がある。湘南台で「小田急江ノ島線」「相鉄いずみ野線」、戸塚で「JR 線」、上大岡で「京急線」、関内と桜木町「JR 根岸線」、横浜で「JR 線」「京急線」「東急東横線」「相鉄本線」「みなとみらい線」、新横浜で「東海道新幹線」「JR 横浜線」「相鉄新横浜線」「東急新横浜線」、センター南とセンター北で「グリーンライン」、あざみ野で「東急田園都市線」と、このように多くの路線に接続して

いる。この路線には上永谷駅と新羽駅の近くに車両基地が設置されている。駅ナンバリングは「B」で湘南台からあざみ野まで1~32まで割り振られている。さて、路線の情報はこのくらいにして本題の運営事情に入っていこう。

1-2. 車両情報

この路線では現在、6種類の車両が運用されている。なお、すべての列車が6両となっている。

①3000A形(1次車)

1992年~1993年にかけて製造された。現在8編成が在籍している。それまで運用されていた1000形、2000形とは大きく全体を変えてフォルムチェンジした。車両の前面は後述する車両と違い、ややカーブしている。車内は7人掛けのロングシートが基本となっているが、1・6号車の運転席の後ろのシートのみ、4人掛けのボックスシートとなっている。ドアの上には路線図とLED案内表示器があり、スクロールして情報を伝えることができる。路線図は、現在の列車の位置に対応したランプが点滅するようになっている。案内表示器で次駅の案内をするときは「次は (駅名)(B~)」 「まもなく(駅名)(B~)」と表示される。なお、この車両は導入から30年が経過し、経年劣化している。車両の修繕に多額の費用がかかるため、現在4000形(後述)で置き換え

が進んでいる。そのため、この車両はあと数年ですべての編成が廃車になってしまうだろう。



3000A 形の前面

②3000N 形(2 次車)

1999 年に製造された。現在 6 編成が在籍している。車両の前面は 3000A 形と少し変わり平べったくなった。この車両のドア上部には 3000A 形と同じく路線図と案内表示器が設置されているが、路線図はランプが点滅するタイプではなく、路線案内をするだけのものに変更されている。また、先頭車のボックスシートは廃止され、全座席がロングシートになっている。そして、この車両の一部はリニューアルされており、「前面・側面の行先表示器がフルカラー」「車内の路線図が白基調」「床のドア付近が黄色くなっている」などの違いがある。



3000N 形の前面(左:未リニューアル車 右 : リニューアル車)

③3000R 形(3 次車)

2004 年～2005 年にかけて製造された。現在 14 編成が在籍している。それまでは全面が黒を基調としていたのが、この車両は銀を基調とした塗装になっている。この車両の導入当初は、前面・側面の行先表示器は 3 色 LED だったが、その後の工事で、全編成がフルカラーLED 化された。また、この車両から、車内のドア上部に LCD (車内案内表示ディスプレイ) が設置されている。



3000R 形の前面

④3000S 形(4 次車)

2005 年～2006 年に製造された。現在 8 編成が在籍している。この車両は前面が水色となっていて、3000 形の中で一番特徴的な見た目をしている。また、3000R 形と同様に製造後の工事で、「LCD 設置」などが行われている。それ以外の部分は 3000R 形と同じである。



3000S 形の前面

⑤3000V 形(5 次車)

2017 年に製造された。現在 1 編成のみ在籍している。ブルーラインの中で一番のリア車である。ヘッドライトの形状が、それまでは四角であったのが一新されている。車内は、それまでの車両がベージュを基調としていたのに対して、この車両は青を基調とした色になっている。座席の仕切りが透明になっていて、開放感がでている。そのため、明るい印象が持てる。また、この車両にはフルカラーLED・車内 LCD 設置などほかの車両で製造後に改造して設置されたものが製造時点から設置されている。それに加え、LED は今までの車両より少し大型化され、貫通扉にはみなとみらい 21 地区の風景が描かれている。



3000V 形の前面

⑥4000 形

2021年から現在まで製造がされている。8編成導入の予定である。この車両は形式上、1992年に製造された3000A形の次の車両ということになっている。そのため、約30年ぶりの新型車両である。前面は、それまでの車両とは打って変わって、より平面になっている。この車両も3000V形と同様のLEDのサイズになっている。また、それまでの車両では1点式ドアチャイムだったのに対し、この車両では2点式ドアチャイムになっている。電車のドア開時は盲導音も鳴るようになっており、視覚障害者の方も電車に乗りやすくなるよう設計されている。そして、現在この車両で前述の3000A形を置き換えている。3000A形は4000形の導入で全編成が引退する予定であ

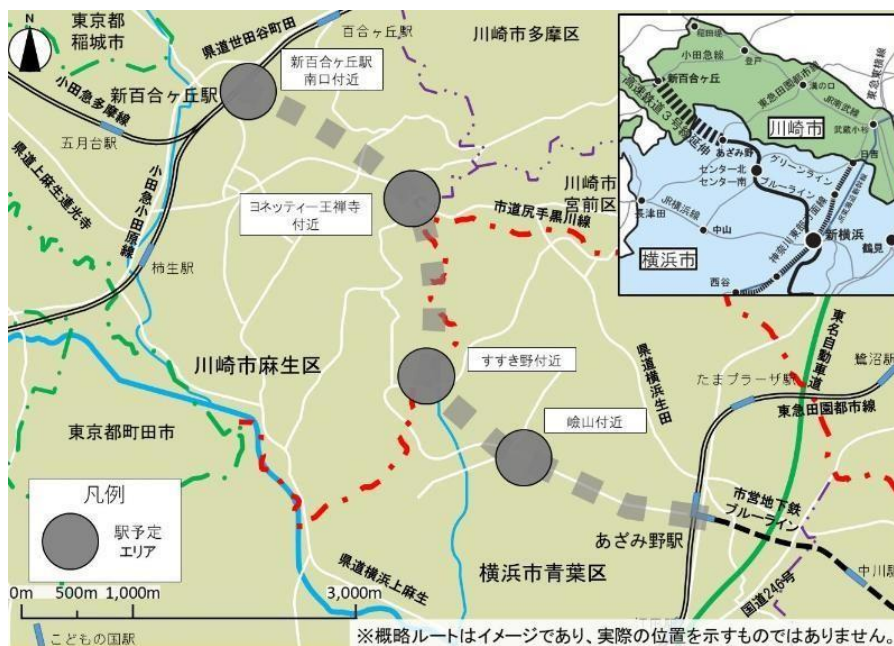
る。記録する場合は、なるべく早く記録することをおすすめする。

1-3. 延伸計画



4000 形の前面

車両紹介が長くなってしまったが、次の話題に入っていこう。ブルーラインには実は延伸計画が存在する。その区間はあざみ野～新百合ヶ丘の約 6.5 km である。この区間が開業すると、横浜市営地下鉄 1 号線・3 号線は全長約 47.0 km の路線となる。これは、現在地下鉄路線で日本一長い都営大江戸線の 40.7 km を超すこととなる。また、起点の「湘南台」駅が藤沢市にあるため、「横浜市営」なのにもかかわらず、起点と終点の駅が両方とも横浜市にないという不思議な現象が発生する。この区間には、途中駅が 3 駅設置される予定である。具体的な位置は次の図の通りである。



延伸ルートのイメージ(横浜市交通局HP より)

1 駅目は嶮山(あざみ野ガーデンズ)付近。2 駅目はすすき野団地付近。3 駅目はコネッティー王禅寺(田園調布学園大学)付近。4 駅目(終点)は新百合ヶ丘駅付近。

現在、1 駅目の近くには「あざみ野ガーデンズ」バス停、2 駅目の近くには「すすき野団地」バス停、3 駅目の近くには「田園調布学園大学前」バス停、4 駅目の近くには「新百合ヶ丘駅」バス停がそれぞれ設置されている。ただ、これらのバス停に乗り入れている系統は異なるため、延伸開業すると川崎市麻生区の交通は便利になることが予測される。また、川崎市には現在地下鉄が通っていないため、川崎市にも地下鉄が通ることとなる。開業は 2030 年度の予定である。

2. グリーンライン

グリーンライン(正式名称:横浜市高速鉄道 4 号線)は神奈川県横浜市緑区に

ある中山駅から同市港北区にある日吉駅までを結ぶ全長 13.1km の路線である。また、この路線は中山で「JR 横浜線」、センター南とセンター北で「ブルーライン」、日吉で「東急東横線」「東急目黒線」「東急新横浜線」と接続する。ブルーラインの駅と乗り換え路線が被っている上、路線長が短いため、起点から途中駅までの利用が多いと考えられる(ただ、中山から日吉まで移動するならグリーンラインで行くのが最も運賃が安くなる。)。この路線には川和町駅に車両基地が設置されている。駅ナンバリングは「G」で中山から日吉まで1~10まで割り振られている。

2-1 . 車両情報

10000 形

2006 年～現在まで製造されている。現在 17 編成在籍しており、開業時の 2006 年からずっと運用されている。製造時は全編成 4 両編成で造られたが、現在 6 両編成化工事が行われている。ホームは全駅延伸工事が完了している。工事が完了した編成には前面と側面にオレンジ色の「6cars」ステッカーが貼られている。この車両は都営大江戸線と同じように、リニア - モーター式の小型車両になっている。ドア上部には路線図が貼ってある。が、その両側に LCD が設置されていて、電車の走行位置が分かるようになっている。



10000 形の前面

3.最後に

いかがだったでしょうか。この記事では横浜市営地下鉄の基本情報を説明してきた。

ブルーラインもグリーンラインも、これまでに多くの旅客を輸送してきた。「あざみ野」～「新百合ヶ丘」の延伸区間が開業すると、これまで以上に路線が便利になることが予測される。それに伴って利用者数も増えるだろう。ぜひこの路線に一回は乗ってみてほしい。

～ 引用 ～

横浜市交通局 HP <https://www.city.yokohama.lg.jp/kotsu/>

(延伸ルート画像以外は全て筆者が撮影)